

議 長 引き続きまして、受付番号第8号、平野由里子君の一般質問を許します。登壇願います。

1 番 平 野 改めて、おはようございます。議長のお許しをいただきましたので、質問させていただきます。受付番号第8号、質問議員、第1番 平野由里子。松田小学校校舎建設計画について。

松田小学校校舎建設計画の素案が示されましたが、次のことについてお伺いいたします。

(1) 松田町の学校制度等のあり方に関する検討委員会の報告書に沿って、町が目指す教育について一定の方向が出ましたが、建設計画にはどのように反映され、保・幼・小中一貫教育の推進はどうなっていますか。

(2) 太陽光発電はパブリックコメントにおける校舎建設のコンセプトの防災の観点の中に入っていますが、独立したコンセプトで省エネルギーへの取り組みという観点で捉えてはいかがですか。

(3) 同様にバリアフリーの観点も挙げられているのはよいことですが、避難所としても使われる体育館の環境について、どのような工夫を考えていますか。

以上、よろしくお願いいたします。

教 育 長 おはようございます。それでは、ただいまの平野議員の御質問に順次お答えさせていただきます。

まず、1点目の御質問の一貫教育の推進の件でございますが、新しい校舎を建設するに当たって、これまで将来的な子供の教育環境の変化や、教育上の課題や、あるいは国の制度や方針の移り変わっている状況など、将来を見据えた議論をこれまで行ってこなかったことを踏まえまして、このたび学校制度等のあり方に関する検討委員会を設置をいたしまして、協議を重ねてまいりました。その結果、教育の町・松田の実現を目指すために、子供の育ちや学びをつなぐ保育園・幼稚園・小中学校の一貫教育の推進、地域とのかかわりを大切にした、地域とともにある学校の実現を図ることが示されました。また、一貫教育を推進するに当たっては、保育園・幼稚園・小中学校が教育ビジョンや、あるいは子供像を共有し、多様性やつながりを大切にした教育活動を行い、主体的な学

び、ICT教育や英語教育の推進をすることなどの方向性が示されました。

この報告書の保・幼・小中一貫教育の推進が学校建設計画にどう反映していくかということにつきましては、主な部分として3点をお伝えいたします。

1点目ですけれども、将来、少子化による小中一貫校にも対応可能な学校として、将来的に同一の敷地内にて小中一貫校としての建物利用及び校舎等の増築にも留意した施設になることを考えています。また、小中学校の共有に対応した施設整備として、教室や机、椅子等の大きさ、あるいは特別教室の机は高さが調整できるようなものなどを整備することを考えております。

2点目といたしまして、地域に開かれ、地域の学びの場としての学校とありましたので、地域の方や保護者などが気軽に使えるコミュニティールームを備え、また図書室やパソコンなどの情報機器を兼ね備えた情報センターとしての機能を備えることを考えております。このコミュニティールームや情報センターは、稼働していない時間帯に地域の方々が利用できるよう、今後の計画の中で検討していきたいと考えております。

3点目といたしまして、情報化や国際化などに対応した設備や機能を備えた学校として、各教室に電子黒板、無線LANなどのネットワーク環境を充実させ、多様化に対応できるICT環境を備え、また、国際理解教育はイングリッシュルームのスペースを確保する予定でおります。さらに、各教室の名称サイン等は日本語と英語の表記をする、そうした環境づくりも考えております。

このように、ハードであります建設計画では、現在も鋭意取り組んでおります連携教育をより促進するため、保・幼・小中一貫教育の推進していく特色のある学校づくりに向けて計画しているところでございます。

一方、ソフト面では、小中一貫教育を実現させるためには、変化の激しい社会動向にしっかりと目を向け、一貫性のある教育課程を編成し、保育園・幼稚園・小中学校が一丸となって教育活動を展開する必要があります。また、保護者や地域住民とお互いの情報や課題を共有して、共通の目標・ビジョンを持って、日々の教育活動や学校運営を進めていく必要があります。そこで、来年度、保護者や地域住民を交え、子供たちの育ちや学びをつなぐ園・学校教育について話し合う場として、仮称ですが、学校運営協議会なるものを設置し、議論を

深める予定としています。

次に、２点目の御質問、省エネルギーの取り組みに関しての御質問についてお答えします。平野議員も御承知のとおり、本町ではすぐれた自然環境を次代に継承していくため、自然由来による再生可能エネルギーの活用等による循環型社会の形成に向けた積極的な取り組みとして、平成28年からクールチョイス事業等の啓発活動を推進するとともに、住宅や公共施設の屋根を利用した太陽光発電システムの設置の推進、木質バイオマス事業化の推進など、鋭意取り組みを行っているところであります。

そのような中で、21世紀を担う子供たちへの環境教育は、極めて重要な意義を有しております。このため、学校建設につきましても地球環境への負荷低減を図るとともに、環境エネルギー教育の教材として活用でき、地域の環境・エネルギー教育の発信拠点となる学校施設の整備を推進するものと考えます。御質問のとおり、校舎建設に当たって実施したパブリックコメントでのコンセプトでは、防災の観点から省エネルギー取り組みになっておりますが、学校施設の整備の推進に当たっての状況等を踏まえ、地球環境への負荷低減を図れるような施設を考えております。このようなことから、学校建設に当たっては採光や通風に配慮し、あわせて自然可能エネルギー活用による学習空間として、健康で快適な室内環境の確保を図ることや、環境教育にも活用できることを考え、地球環境への負荷を低減させる施設を目指すことをわかりやすく表示してまいりたいと思います。御提案ありがとうございました。

次に３点目の御質問、避難所としても使われる体育館の環境に関しての御質問についてお答えいたします。現在、松田小学校体育館は避難所に選定されており、今後、建設を予定させていただく体育館においても、避難所として選定する予定であります。地域の避難所となる学校施設の防災機能の整備に当たっては、早期に学校教育活動を再開させることを念頭に、想定される避難者数や起こり得る災害種別のリスクを十分考慮し、教育委員会と安全防災担当室と役割を明確にしながら進めていくことが重要と考えております。

建設に当たっては、学校施設が災害時に地域の避難所としての役割を担うためには、まず、施設が安全であることが大前提となります。このため、避難所

となる体育館の立地環境が自然災害に対して安全であるとともに、災害により重大な被害が及ばないよう施設の耐震性・耐火性の確保に加え、避難生活に必要な諸機能を備えるなど、安全対策を講じてまいります。

また、学校建設に当たっては2点目の質問と同様に、採光や、あるいは風、通風に配慮し、あわせて自然可能エネルギー活用による空間として快適な室内環境の確保を図ることで、地球環境への負荷を低減させることを考えております。避難所生活に不可欠なトイレにつきましては、多機能なものを設置し、スロープなどのバリアフリー化を行います。防災資機材倉庫については、車両が出入りしやすく、物資を搬入・搬出しやすい施設を考えております。

また、地震災害、特殊災害、火災あるいは危険物等の災害以外の風水害災害で、台風警戒に伴い、避難者が少人数であると見込まれる場合には、体育館だけを避難所とせず、校舎内の教室を避難所として、地区別に振り分けるなど明確にしていきたいと考えております。これは避難者が少人数であると見込まれる場合や、障害のある方、あるいは高齢である方、乳幼児・妊産婦等の避難生活において特別な配慮が必要な方々のために、専用のスペースを可能な限り確保するとともに、各教室に整備するエアコンにより温度調整ができるため考えるものであります。

このように、学校施設が災害時に地域の避難所としての役割を担うために、できるだけ対応できる施設として設計・建設を目指してまいりたいと考えております。

また、新しい校舎建設に当たっては、これまでに開催した地域住民説明会や意見交換会、パブリックコメント、住民からの意見募集、そのほか松田小学校の教職員からいただいた現場からの要望、これらさまざまな思いや御意見を伺い、学校のあり方検討委員会の提案も踏まえた中で、計画策定を進めてまいりました。明るく健康的な環境を備え、機能的で使いやすく、将来の多様な学習活動に利用可能な設計を行っていきます。21世紀を担う本町の子供たちに対して、質の高い教育を保障し、子供たちや教職員、あるいは学校施設を利用する方や地域の方々にも親しまれ、安全かつ安心して学ぶことができる校舎の建設に取り組んでまいりますので、今後とも御理解をいただきますようお願いをい

たします。以上です。

議 長 平野議員に申し上げます。これよりは無理をなさらず、着席をしたままで結構でございます。

1 番 平 野 御心配いただきありがとうございます。皆様も、本当に御迷惑をおかけしております。

丁寧なお答えありがとうございました。まず、1番のほうからちょっと見ていきたいかと思いますが。パブコメに関してなんですけれども、パブコメの数は、結局、最終的にはどのくらいありましたか。

教 育 課 長 パブコメにつきましては、6人、43件の町民の意見をいただきました。

1 番 平 野 ありがとうございます。この6人、43件というのが、ちょっと寂しい感じがするんですけれども、周知がちょっと足りなかったのかなという気がいたしますが、どのような周知をされてましたか。

教 育 課 長 広報、おしらせ号はもとより、ホームページ、それに加えて総合計画と同様に地域集会施設に箱を置かせていただきまして、意見募集を行ったところでございます。よって、これまでよりも地域集会施設を置かせていただいたことによって、周知はより努めたものでございます。

1 番 平 野 直接、保護者あるいはこれから使うことになる保育園・幼稚園の保護者、こういった方には周知はされたのでしょうか。ピンポイントで、ピンポイントというかそちらにというか。

教 育 課 長 先ほどの答弁にもございましたが、昨年度、教職員に対しまして御提案、要望等をいただきました。また、今年度につきましても松田小学校の教職員に御提案、御要望をいただきました。教職員のみならず、子供たちに対しましても、先日、教育長から学校長を通して意見、4年生以上6年生までということ意見をいただくことになっております。

1 番 平 野 ちょっと保護者の…。

教 育 課 長 すいません。あと、先ほどの御質問の保護者の方に対しましては、PTA運営協議会、PTAの代表の方々の委員長を通して御説明をしたところでございます。それを3回ぐらい説明をいたしました。

1 番 平 野 今回はかなりね、努力して周知してくださってると思うんですが、ちょっと

数が少ないのは、なかなか悩ましいところですね。これは、ずっと町長がいつもおっしゃってるように、いろんなところでとにかく発言…いろんなことを発表していかないと、なかなか関心が起こらないなというものの一つの例ではないかと思いますが、これは、これに関しては、また引き続き周知を、どんな場合でも徹底していただきたいと思うんですが。特に心配しているのが、小中一貫教育という言葉と義務教育学校というのが、ちょっとやっぱり一般の方にはなかなか理解がされていないようで、今回の建設でいきなり小中学校が同じ敷地になるというふうに思っている方もいられるんですね。時々そういうふうに聞かれますので、この辺の周知、どのようにこれからされていくおつもりでしょうか。

教 育 課 長 確かに、小中一貫校、義務教育学校につきましては、わかりにくい、法律も新しいことによりまして、わかりにくいものでございます。議員の皆様には御説明しましたとおり、組織として1人の校長、免許として小中の両方の免許を持っていなければいけないというのが義務教育学校といったものでございます。（「私たちはわかってるので、それをどういうふうに…」の声あり）それを、今後行われます町民の説明会の中でも、こういう結果で動いてます、小中一貫校というのはこういうものでございますということで、小中一貫教育との違いを丁寧に説明していきたいと思っております。

1 番 平 野 やはり本当わかりにくい。違いがわかりにくいというのをね、本当、私たちが最初聞いたときにそう思ったくらいなので、やっぱり事あるごとに、これも今回いきなり一緒になるわけじゃないよというのを、もう本当にしょっちゅうしょっちゅう言っていないと、なかなか、ちょっと誤解してしまうんじゃないかと思うので、そのあたりのところは、ぜひよろしく願いいたします。

あともう一つ、小中一貫教育のことで心配されているのが、やはり寄の方なんですけれども、寄の小学校については、この小中一貫教育というのをどのように組み込んでいくのか。もちろん、カリキュラムが同じ町だから、同じように教育を受けるんだという、そういう信念で小中一貫教育のカリキュラムこれからつくっていかれると思うんですが、そのあたりどのような工夫というか、

寄をどんなふうに扱って組み込んでいくのか、そのあたりはどうでしょうか。

教 育 課 長 これまでも松田町では幼稚園・小学校・中学校の連携につきまして、松田地区・寄地区それぞれにおきまして12年間の連携教育の目標を作成しておりました。それは、生活習慣や学習習慣について共通な目標を定め、計画を作成することによりまして、園児・児童・生徒の学力向上と社会性の育成、学校と園との滑らかな接続というような目的で行ってきました。御質問にありました寄小学校の件はどうなるのかということですが、これまでもそういった連携のもと、それと別に学校ごとの目標・教育課程を定めておったんですが、今後は一貫性のある教育活動が必要という目標を立てましたので、今後は共通の学校の目標と教育課程を定めまして、共有した中で、さらに深く進めていくべきだと考えております。具体的には、一貫性のある教育課程の編成は、一貫教育を進めていく中で、とても重要なもので欠かせないものと考えております。先ほども教育長のほうから答弁をいたしました（仮称）学校運営協議会といったものを来年度から設置することで、その中で先生方が編成する教育課程につきまして、寄小学校についても同じ目標ということで十分に協議・検討をしてみたいと考えております。

1 番 平 野 先ほどの学校運営協議会に関しては、先ほどのお答えの中だと地域の保護者・地域の住民との共通のビジョンを築き上げるというところでの協議会というふうなお答えだったんですが、これは、先生方も入ることなんでしょうか。

教 育 課 長 学校運営協議会につきましては、既に始まった市町のものもございます。国から示された中では、地域とともに学校を考えるということで、地域の方々を含めた中で学校運営協議会というような協議会組織がございます。その中に教職員も入りますので、教育課程においては学校の先生を中心に、地域の方々から意見を聞きながら進めてまいりたいというふうに考えております。

1 番 平 野 この協議会は、じゃあ共通のビジョンという抽象的なことだけではなく、こういったカリキュラムを実際に組んでいく、そういう協議会なんですか。

教 育 長 いろいろ御質問ありがとうございます。この一貫教育の推進ということについては、御存じのように28年度新たなスタートをした状況ですので、確かに、

まだ地域の方々やその他に十分な理解ができていないということは御指摘のとおりだというふうに思いますので、これからやっぱりこうしたことを一緒に考える中で深めていきたいというふうに思っていますが、今の運営協議会のほうですけど、まだ、これから寄地区あるいはこちらの地区も含めて一貫教育を推進するということになれば、一つはやっぱりそれぞれ寄は寄で地域が違いますし、小規模…規模も違います。そうした、やっぱり特色も踏まえながら、しかも同じ中学に行けば、同じ中学校へ行くわけですから、同じ松田の子供たちを育てるんだということの中で、やっぱりどういう子供を育てたいのか、この地域として、そうしたものをきちっと踏まえた中で、今後、一貫教育を推進していくほうが望ましいということでしたので、まずは、これから進めていく上では、さまざまないろんな課題がまだまだたくさん残っておりますので、まずは運営協議会の中でどういう課題があるのか進めていく中で、それをまず一つは洗い出しをして、先ほど課長も申し上げましたように、その中の一つとして教育課程の編成、これは非常に大きいものがあるかと思いますけれども、そうしたことも含めた中で課題を洗い出し、それからそれぞれ専門部会みたいな形になろうかと思いますけれども、何年かかかるとは思いますが、そうした中でしっかりと進めていく基盤をつくっていききたいというふうに思っているところです。

- 1 番 平 野 カリキュラムの編成ということになると、非常に専門的なところがあるので、なかなか地域の方がどんなふうにかかわるのか、またちょっと難しいのかなと思うんですが、これは今後どんなふうに具体的にね、協議会をやっていくのかというのは、また決めていただくと思いますので、そのあたりで考えていただければなとは思っています。

そのカリキュラムというか、一貫教育を考えるに当たって、やはりどうしても、何というのかな、数が少ない寄じゃなくて、多いほうの松田のほうに合わせるような、どうしてもそういうふうになりがちではないかなと、ちょっと心配をしますので、これまで寄で行われてきた小さな学校で、とても地域に本当に根づいていた教育というのを、どこかの時点でもうちょっと町全体が共有するような、何かそういう工夫があるといいなというふうに希望しているんです

が。具体的なところとしては、例えば幼稚園、ちっちゃな子供たちの段階では、今、森の幼稚園という取り組みが全国で散発的に起こってしまっていて、これは本当に幼稚園とか保育園とか、それぞれもう既に組織になっているところがこういう森の幼稚園の取り組みをしているところもあれば、いきなり保護者たちの有志の団体が、何か散発的に始めたグループで森の幼稚園という名称を使ったりして、割と緩い、規約はなくて緩いものなんですけど、ホームページとかを探していただければわかるんですが、これは寄ではもうとっくにやっているような感じが、そのまま地でやっているような感じがいたしますので、こういった部分をもう少し拡大し、さらにアピールをするということで、都会で今、子育てで悩んでられる層、かなり多くて、そういうものをわざわざ検索して子供をこちらで育てたいというような層もいますので、ぜひそのあたりをちょっとうまく取り入れていただければと思います。

それから、あと、エディブル・スクール・ヤードという考え方もありまして、それは小学校・中学校段階なんですけれども。これはアメリカから入ってきたコンセプトなんですけれども、要するに、ちょっと荒れていた学校なんかが校庭の隅っこで畑のようなことを始めて、ただつくるだけではなくて、それをみんなで収穫して食べるところまで、料理をして食べるところまで、だから、いろんな段階で農家の方がアドバイスに入る段階もあれば、料理をする、お料理が上手な地元の方が入ったりとか、いろんな形でこの地域の方もかかわっていく中で、最終的に命のつながりを学んで人間としての成長というのをそこで学ぶという、そういうコンセプトなんですけど、このエディブル・スクール・ヤードなんていうのも、本当にこの寄あるいは松田地区でもやろうと思えばできる。昔はね、ある世代までは学校のミカンの畑がありましてね、そういうこともやってましたし、何かそういったところをもう少し、せっかくこの学校が新しくなるところで、何かそういった何か核となるような、そして地域をアピールできるような、何かそういうコンセプトを取り入れるというような、そんなお考えはありませんでしょうか。

教 育 長 ありがとうございます。今回、小中一貫教育という形でやると、今までせっかくそういうね、地域の特性を生かした活動をしていたものが、何か全部なく

なっちゃって閉ざされてしまうんじゃないかという御心配のようですけども、あくまでも、それぞれの今、特性と、あるいは規模の違い、そうしたものは、それぞれ尊重しながら、むしろやっぱり寄で下でない、松田小にないですね、そうした新たな取り組みをしていることも、そうした教育課程編成やいろんな一貫教育を進める上で、そうしたものをむしろ取り入れてみようよとか、逆にプラスになる面も多分にあるかと思いますので、そうしたことも含めて、やっぱりこの地域でなければできない、そうしたことの教育がこれからやっぱり求められてくるというふうに思っていて、今回の中での提言の中でですね、やっぱりふるさとに根差したやっぱり教育の推進ということもうたわれていますので、そうした、今御提案いただいたことも含めて、前向きに検討してまいりたい、今後前向きに検討してまいりたいというふうに思っております。

1 番 平 野 前向きに御答弁いただいてありがとうございます。何か、本当に全然無理な感じではなくて、何か寄でも、あるいは松田でもやれてるな、あるいはちょっと工夫すればやれるなというような感じのものが、今、世の中でちょっと出てきているというのは、逆にやっと時代が松田に追いついたかなという感じもありますので、ただ、それをやってるだけじゃなくてアピールしないとわかってもらえないというところなので、やはり先ほどのね、周知のところもありましたが、常に何というか、発信をしていくということがやっぱり大事なかなというふうに思いますので、ぜひお願いいたします。

それと、この間の広報でちょっと気になる学力調査というのが載っております、小学校6年の段階では、全国平均あるいは同程度ぐらいか、あるいは上ぐらいになっていたものが、中3のところではちょっと心配な項目が出てきているなというふうに感じましたが、このあたりの結果も、今回ソフト面での策定のとときにはどのように入れていかれるのでしょうか。

教 育 長 おっしゃるとおりで、今回、毎年受ける子供たちが、対象が違いますので、結果もそれに伴って変わってはきますけれども、今回は、たまたま小学校のほうはかなり平均と比較して、結果的によかったんですけども、中学校のほう若干課題があるという結果になりました。これは、もちろん私たちも結果はそのまま公表はもちろんしますけれども、むしろ、私たちは子供たちや学校自

身が、教職員自身がこれをやっぱり真摯に受けとめて、これを今後の指導やあるいは子供たちがこれから学習する課題に、私は何が課題かということをしきつとつかまえて、やっぱり今後に生かすことが一番大事だというふうに思っておりまして、それにつきましては校長・園長会や、あるいは教職員の集まった会議、それからそれぞれの担当の町の教育研究会みたいなものも持っておりますので、そうした中で課題を投げかけて、それは個人の課題でもあるけれども、学校全体で取り組む一つの大きな課題でもあるという踏まえの中で生かしていく、あるいは指導していくということでは確認はさせていただいております。

その都度都度違いますけれども、基本的にちょっと課題として残っているのは、やはり比較的です、最近のゲームだ、スマホだといった、そうしたものをある程度決められた時間内で子供たちがやる、そうしたルールがきちっとできているのかなというところあたりは、このとこ何年か課題になっておりまして、我々も4月にも保護者宛てにも教育長あるいは教育研究会、校長連名で保護者にも通知を出したり、協力をしていただいたりしておりまして、できるだけそうしたことが子供たちの学習の、今後のやっぱり向上につながるような、これからも考えていきたいと思っておりますし、今回の小中一貫教育も基本は子供たちにしっかりと学力を身につけるためにということが一番基本でもありますので、そうした方向で、また取り組んでまいりたいというふうに思っております。

- 1 番 平 野 学力のところも心配は心配ですが、ちょっとやっぱり気になったのが、コミュニケーション能力とかね、読書を全くしないのが約4割とか、小学校6年まですごい頑張ってたのに、急に何だろうという、やっぱりちょっとそこ小中の何というか連携というのかな、うまく中学世代にね、中学校ってすごく微妙な年代なので、いろいろ大変だと思うんだけど、何かそういうところが今回の小中一貫教育の取り組みによって、少しでもよくなればなというふうに思うので、よろしくお願いします。

2 番に関してなんですけれども、太陽光発電のコンセプト、これを防災だけではなくて、もう少し大きい別項目ぐらいの感じで、わかりやすく表示するというようなお答え、先ほどいただきまして、ぜひそのような感じで、バーンと、

せっかく環境に取り組んでる町ということでアピールをしていただきたいなと思っています。今のお答えの中にも、単に太陽光をつけるだけではなくて、採光や通風なども工夫するというようなこともありましたので、昨今、エアコンをつけるのは当然というふうな流れになっておりますが、ただエアコンをつければいいだけではなくて、何というか、本当にね、本当に電気もすごい使ってしまうことになっていきますのでね、より省エネになるような工夫というのが絶対必要だというのが思いますので、そのあたりはぜひ工夫していただきたいところだと思います。

お答えの中にも、環境教育の拠点となるようにというふうなお言葉もありましたので、そのあたりもぜひ取り組んでいただきたいと思うんですが、エコスクールという、これはホームページからちょっと打ち出したものなんですけれども、文科省・農水省・国交省・環境省が、4つの省がね、いろんなメニューで補助金も出しながら提案している国の取り組みがあります。このあたりでは南足柄の福沢とか、大井町の湘光中などが認定を受けているものなんですけど、いろいろちょっと調べてみると、すごく大げさなものもあれば、ちっちゃな工夫でこのエコスクールということを認定が取れたりする項目もありますので、ぜひこのあたりもちょっともう一歩踏み出して、エコスクールの認定も取りますよみたいな、取りましたよみたいな、ちょっとアピールができるといいんじゃないかなと思うんですが、そのあたりはどうでしょうか。

教 育 長

ありがとうございます。おっしゃるとおり、今、エコスクールということでね、全国の各地の学校でもそうした取り組みをしております。私も今回、新しい学校建設に伴って、先ほど平野議員からもおっしゃった採光や通風、あるいは今言った太陽光だとか、いろんな形でそうした形のものを取り入れるということは、子供たちの教育環境を、やっぱり快適にするという目的もありますけれども、一方で、やっぱりこれから次代を担う子供たちがそうした活動に触れたり、あるいはそうしたことを考えたり、あるいは実際に活用するときの、例えば節水・節電も含めてですね、学習に使えるものだというふうに思っております、むしろそれを子供たちの学習にどう生かしていくかということが、これからを育成する子供たちにとっては大事な事かなというふうに思っております。

ます。

そうした意味では、これを一つのエコスクールの、やっぱり方向に、木の学校づくりそのものが私はもうエコスクールの一つだというふうに思っておりますので、おっしゃるような御提案をいただいたものも含めて、今後、エコスクールの取り組みを進めたいというふうに思っております。学校によってはごく少数の、例えばですね、よくやるアサガオだとか、そうしたものをちょっと採光のところにに入れて涼しくするといった、本当に緑のカーテンみたいな、そうしたものでもエコスクールの一つとして取り組んでいるようですので、子供たちにもできる幾つかの取り組みも加えて、今後検討していきたいというふうには思っております。ありがとうございます。

1 番 平 野 ありがとうございます。3つ目の体育館のことについてお尋ねいたします。これに関しても、今、採光・通風ということを気をつけるということ、お答えにいただきました。また、トイレのバリアフリーなども当然ということをしていただきまして安心しているところなんですけれども、これ、あれですよね、やはり体育館にはエアコンというのはつけられないんですよね。費用的にはね。どうなのでしょう。

教 育 長 話題には出ました、確かに。しかしながら、やっぱりあれだけのかなり高さも高い、あの中をやっぱり相当な量の、やっぱり空調施設を入れるとなると、経費だけでなくてむしろですね、やっぱりそうしたことをやたらに入れることが、果たして今おっしゃるようなエコ教育とか何とかですね、そうしたことにつながるのかどうかということを考えまして、やっぱりどうしても必要な方については、先ほどお話ししましたとおり、特別にそういうある部屋にむしろ入っていただいて、むしろ通風だとかですね、そうしたやっぱり自然環境を、やっぱりできるだけ取り入れることで体育館のほうは維持しようかなというふうに考えたところです。

1 番 平 野 そうですね。やはり現実的に考えると、私も難しいなとは思っているんですが、現在の松田小学校の体育館が、本当に夏は暑い、冬は寒いのが本当に典型でしてね、避難に使う前にも本当に学校開放で何回か体育館使ったことがあります、かなりちょっとつらい環境だなと思ってましたので、ぜひ今回

は採光と通風だけでも全然違うと思いますのでね、そのあたりよろしく願
いいたします。

それからあと、先ほどトイレのことはおっしゃってましたが、シャワーはど
うなんでしょうか。計画に入っていましたか。

教 育 課 長 計画、また今後プロポーザルを行います仕様書の中には、更衣室・シャワー
室入っております。

1 番 平 野 ありがとうございます。やはり、避難として実際使うという、かなりシャ
ワー必要だなと思うし、もしかしたら、ふだんのイベント、運動の後なんか
でも、例えば遠くから講師がやってきたみたいなきに必要ではないかなな
んて思ったりいたします。この、先ほど、きのうも防災の観点で井上議員が
質問したときに、避難所のスフィア基準という言葉が出ておりまして、この
あたり、今後、避難所をつくっていく、開設していくときに、かなりクロ
ーズアップされていく基準ではないかなと思うんですけれども、このあたりの
対応、防災課のほうと計画は…防災担当のほうと計画の段階で、やり取りと
かはされているのでしょうか。計画段階で防災の方がアドバイスみたいなこ
とをされているのでしょうか。

教 育 課 長 昨日の答弁にもありましたが、今後の学校づくり、新しい学校ということで
防災とも連携しております。その中で、今、仕様書の固める段階なんですが、
防災とも連携した中で取り組んでおります。

1 番 平 野 そうしましたら、ぜひ、この、きのうも言葉として出てまいりましたが、こ
のスフィア基準に関しては、少しちょっと調べていただいて、ぜひ意識した
ものにしていただければなと思っております。ただ、このスフィア基準とい
うのは二次災害、つまり避難した方がそこで亡くなるということはあつては
ならないというようなことから出てきた国際的な基準ではあるんですが、こ
れは一番の理念というか、基本は今言ったように二次災害があつてはなら
ない。それから被災者の尊厳という、そういう理念がまず第一に打ち出されて
いて、実は、数字がすごくひとり歩きして有名になっちゃったんですが、例
えば、トイレは女性は男性用の3倍必要であるとかね、そういう何か数字ば
っかりがひとり歩きしちゃって、スフィア基準はそういう数字だというふう

に理解されてしまったんですが、そうではなくて、この数字はあくまでも、何ていうか推奨される基準ということで、やはり理念を考えていただきたいなど。避難してきた方への何ていうか対応、人道援助を受ける権利があるんだというそういうところ、そしてやっぱり何ていうか、避難をしていますが、何ていうのかな、人間らしい環境をなるべく配慮するんだという、そういう理念ですよ。そういうところをまず皆さんで共有していただいて、そこから実際の建築の計画のほうに反映していただきたいなと思っております。

実際に、この3つ項目を見てきても、まだまだ小学校建設に関しては、これからは協議会なんかもありますので、いろいろなことが出てくるのではないかなと思うんですけども、本当にいい機会ではありますので、このハードが一新される機会にソフトもぜひしっかりと見つめ直すというか、それは一番最初に言った学校制度のあり方検討会で、すごく丁寧な議論をされていましたけれども、あの議論を、本当に何ていうか、私なんかはちょっと何回か傍聴に行ったので、すごいすばらしいなと思って見てましたが、やっぱりそれをすばらしいというふうに知ってる方はごく少ないので、ぜひそういった議論の中での、何ていうかな、あれもとても理想を目指すというか、すごく皆さんいいことをおっしゃってくださいましたし、一方で現実的な保護者の委員なんかは、非常にリアルな御意見なんかも出していらしたので、何かそのあたりのところをもう一度共有して、このハードだけでも忙しいとは思いますが、ぜひソフトもすばらしい学校をつくっていただいたらいいなと思っております。ぜひ、要望で終わりますけれども、よろしくお願いいたします。

議

長 以上で受付番号第8号、平野由里子君の一般質問を終わります。

暫時休憩といたします。休憩中に議会全員協議会を開催いたしますので、10時50分までに大会議室にお集まりをくださいますようお願いを申し上げます。

(10時34分)